

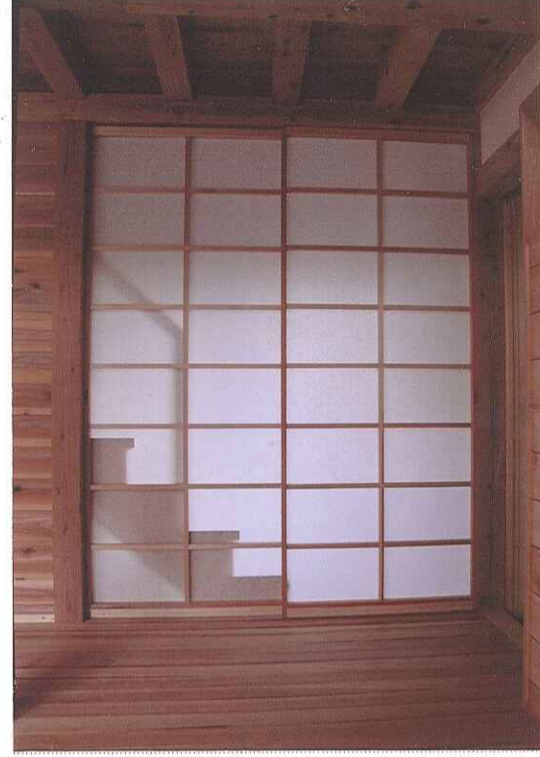
東立面図 S=1/100

玄関アプローチ

玄関から和室をみる
玄関・水回りの床は豆砂利入りセメント研ぎ出し仕上げ

廊下から階段をみる

広間から障子を通して階段をみる



設計趣旨

郊外には延々と、あらかじめ決められた大きさの住宅地に、あらかじめ決められた大きさ（高さ）の住宅が建ち並び、それらの住宅のほとんどは木造でありながら木材は隠蔽され、多国籍風に化粧される。その同じような光景は今やごく当たり前に住宅地の街並みを形成している。そこでは住宅とは既に与えられたものとして存在する。木造住宅では本来、痛みが目に見え、メンテナンスがしやすいという意味で構造材はあらわして用いたほうが良い。けれども設計者にとって、そのテイストの制御が難しい木材とは扱いにくい素材であり、また骨組みをあらわして用いる場合、間取りと架構とを整合させることは難題である。ここでは地棟の松丸太と土台のヒノキを除く構造材の全てを特等材の杉の4寸角だけで構成し、あらわされた木材と空間との調和を目指した。また材や仕口の種類を限定し、建物の高さを積極的に抑えること、さらに（建て主にとって）必要なものとするのではないものを明らかにすることによってローコスト化を実現している。

静かな家とは、鏡舌であかさまに主張するのではなく、かといって批評性が欠如しているわけでもない住宅の建ち方を希求するものである。シンプルな佇まいを持ち、2階建てでありながら平屋のようにも見えるこの住宅が、外壁、屋根不燃区域における木材という素材の使い方を、街並みを再考する一助になればと思い計画した。

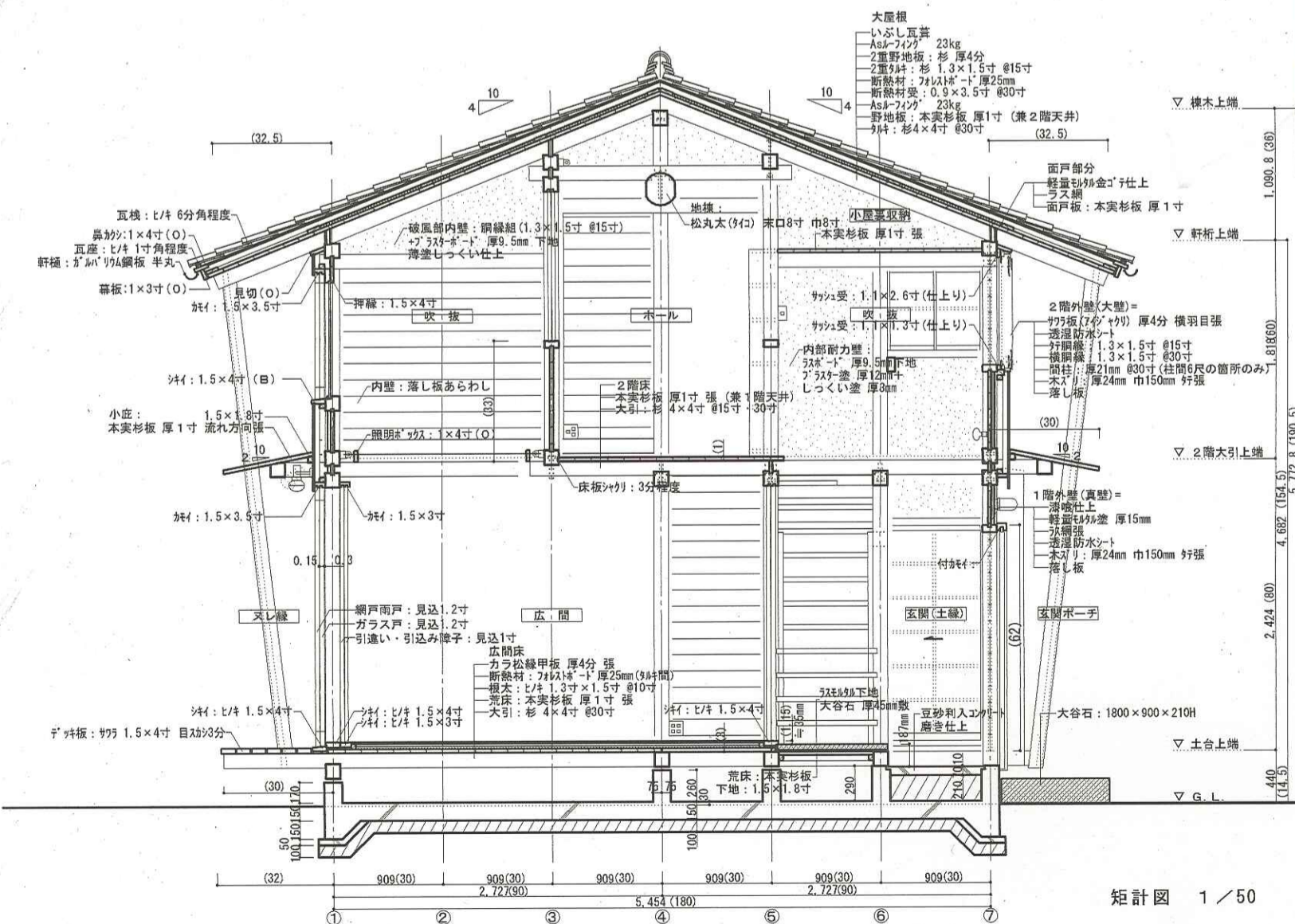


東立面の写真 平屋建てにみえてくれることを願った

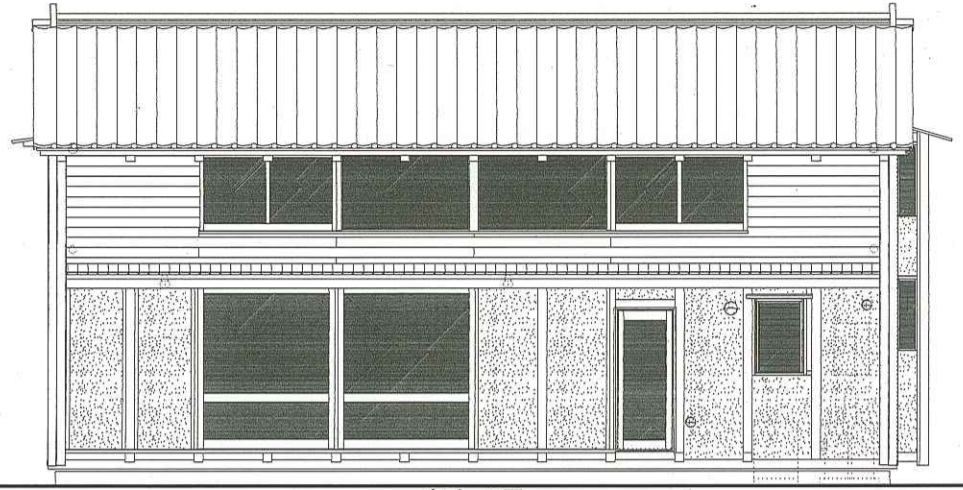
静かな家



北東側遠景
この家の低さ、あるいは周りの住宅の高さがよくわかる



矩計図 1/50



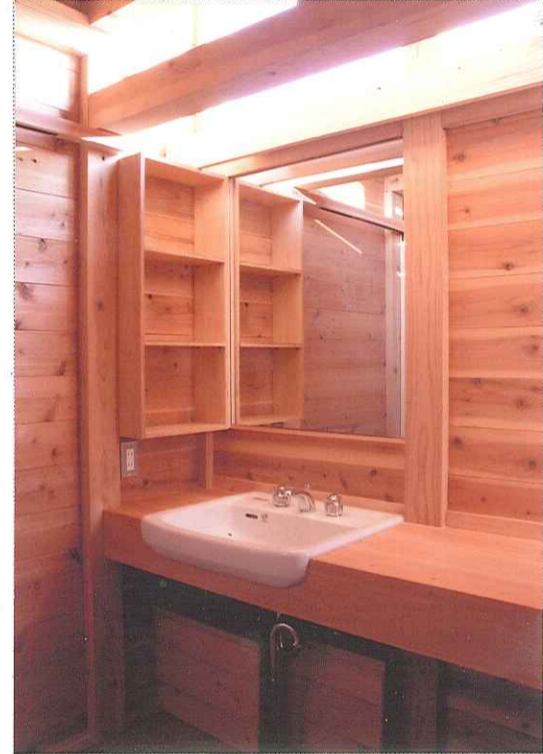
南立面図

広間南側開口部 網戸・雨戸から漏れる光

広間から台所をみる

2階ホールから書斎・子供室をみる

洗面所 カウンターはサワラ板



更に8分厚の木ズリをタテに張る
・ 落し板と併せ、耐震性能と防火性能を同時に満足する
(壁倍率・防火構造認定取得)

屋根工事了り時(落し板がみえる)
室内側の落し板はほとんどがあらわし

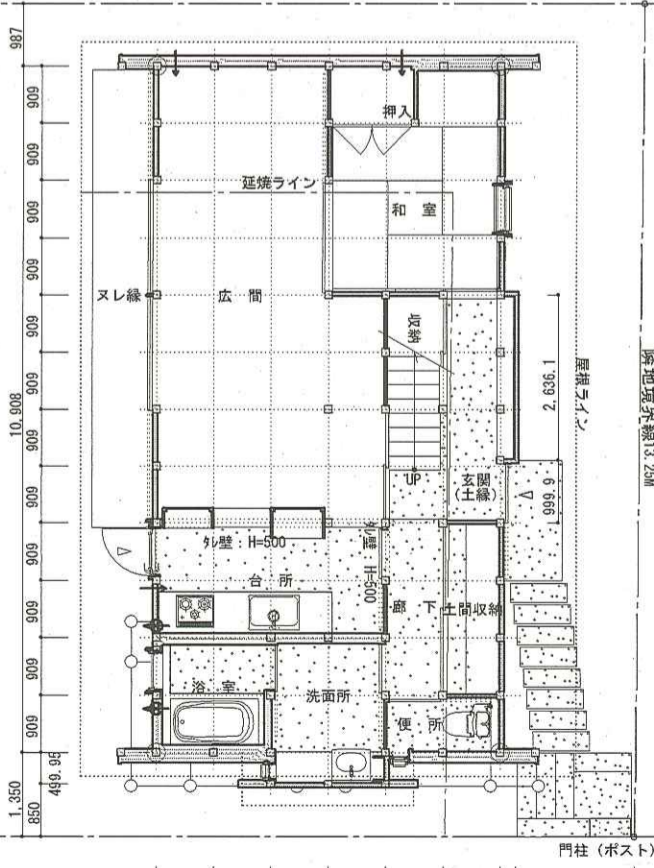
落し板を入れながらの建て方
構造材はすべて4寸角

手刻みによる長ホゾの加工

軸組み模型
一本の地棟以外はすべて4寸角

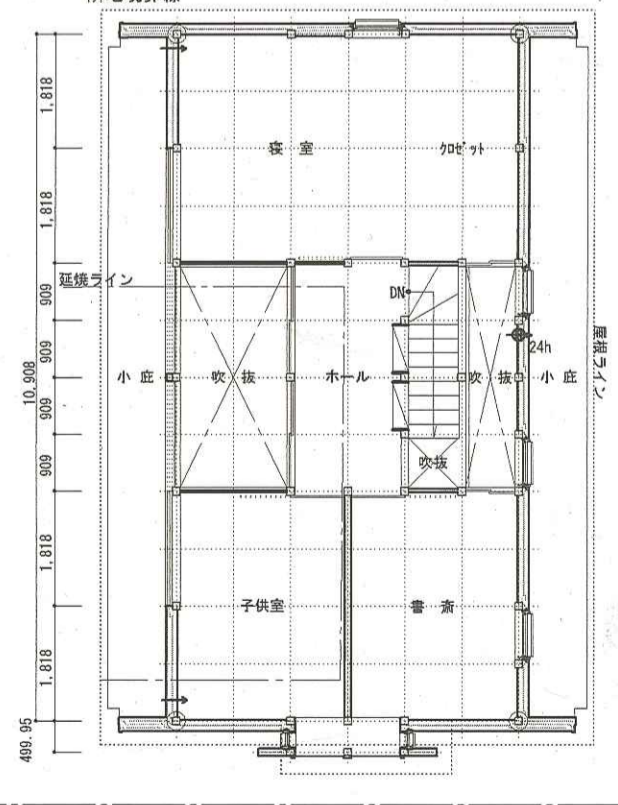


隣地境界線 19.98M



道路境界線 9.98M

隣地境界線

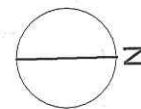


道路境界線

1階平面図 S=1/120

2階平面図

道路中心線



3.000